

に じ 虹

ご自由に
お持ち下さい
Take Free

虹の由来

患者の皆さま、地域の皆さまとの
架け橋となるような広報誌を目指します。

〒310-0011
茨城県水戸市三の丸3-12-48
TEL.029-221-5177(代表)
<http://www.mito.jrc.or.jp>



避難所での巡回診療



薬剤師による服薬指導



こころのケア (リラクゼーション)



第1班出発式



第2班出発式

●平成28年熊本地震災害
医療救護班、病院支援要員、こころのケア要員を派遣しました

「平成28年熊本地震」における水戸赤十字病院の救護活動

平成28年4月14日以降、熊本県と大分県で相次いで発生している地震は、最大震度7を2回観測するなど大きな被害をもたらしました。当院では、医療救護班や病院支援要員、こころのケア要員を派遣し被災地支援を行いました。

当院の救護活動状況

(6月1日現在)

活動形態	活動人員	活動期間	主な活動内容
医療救護班	2個班 計14名	①4月22～28日 ②5月11～15日	熊本県西原村における巡回診療等
病院支援要員	計3名	①4月25日～5月1日 ②4月29日～5月5日 ③5月7日～12日	熊本赤十字病院業務支援
こころのケア要員	計2名	5月30日～6月5日	被災者や被災自治体職員等への傾聴やリラクゼーション

● 「平成28年熊本地震に伴う熊本赤十字病院一病院支援活動報告」 ●

脳神経外科部長 兼 医療社会事業副部長 遠藤 聖



平成28年4月14日夜及び16日未明の2回にわたり最大震度7の大きな地震が熊本県を襲いました。これにより社会インフラの損壊とともに、地域の医療機関も大きな損傷を受け、診療継続が困難となる医療施設が続出しました。この状況に対し日本赤十字社は直ちに西日本を中心とする各赤十字病院へ医療救護班等の出動を決定し、被災地の医療支援・救護活動を開始しました。しかしこの二度に渡る大きな地震またその後も続く余震は、想像以上に地域社会の破壊のみならず、地域住民の「こころ」にも大きな傷痕を残しました。

地域の中核病院である熊本赤十字病院は直ちに医療機関としての機能を回復するとともに診療を再開し、被災者のために全力で診療に当たりました。しかしながら熊本日赤の職員自らが被災者である中、押し寄せる被災者・患者対応により職員の疲労はピークに達し、この状況を鑑みた日赤本社はすぐにその支援の輪を全国の赤十字病院にまで広げ、水戸赤十字病院からも支援要員を派遣することとなりました。

私は発災後2週間となった4月29日から5月5日までの丸1週間、第3次派遣隊として熊本赤十字病院で活動しました。全国の赤十字病院から医師、看護師、事務職員等約50名が参集し、医師らは総合救命救急センターでの救急患者対応にあたりました。地域医療が崩壊している中、救急外来へは軽傷から重傷者まで普段の数倍の患者が押し寄せ、また救急患者も搬送されてきておりました。ピーク時の救急車及びドクターヘリ搬送件数は一日に58件で、私が活動した頃は35件前後で推移しておりました。その他walk-inといって自ら受診する患者もおり、発災より4月末までの約半月間で合計4800名ほどの患者に対応しておりました。

日を迫うにつれて次第に周辺環境も改善されつつありましたが、食料や飲料水等は基本的に自ら持参した物を、また睡眠は研修室等で大勢で寝袋に包まり雑魚寝の状態でした。12時間勤務の2交代制という中、全国の赤十字職員と協力しながらこの難局を乗り越え、無事1週間の任務を果たすことが出来ました。今回の活動により地域住民の皆様へ少しでも貢献しお役に立てたか不安は残りましたが、皆で精一杯の努力をしてきたつもりです。

赤十字職員であることの誇りと使命感をもって、ただひたすらに「すべては被災者のために」を合言葉に活動したあつという間の1週間でした。このあとの活動は第4次派遣隊へと引き継ぎ、熊本を後にしました。今回この支援活動を通して全国の赤十字仲間の輪が広がったと同時に、改めて日本赤十字社の団結力と行動力、そして底力を感じた派遣でした。

最後に被災者の皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い被災地の復興を願ってやみません。



熊本赤十字病院 一二三院長と第3次派遣支援要員

今回は消化器外科でのトピックスをご紹介します。

これまで私たちは、胆石症に対する腹腔鏡下胆のう摘出術をはじめ、胃癌、大腸癌、鼠径ヘルニアや急性虫垂炎などの消化器疾患に対し積極的に内視鏡手術を導入してきました。胃癌に対しては平成19年(2006)より本格的に腹腔鏡下胃切除術を導入し、現在まで200例を超える患者さまに実施し、開腹手術と遜色ない治療成績を残してきました。この実績を踏まえ2016年3月7日に茨城県初となる、胃癌に対するロボット支援腹腔鏡下胃切除術を導入しました。

ロボット手術とは、インテュイティブサージカル社により開発されたダヴィンチサージカルシステム(以下ダヴィンチ)という手術支援ロボットを用い、内視鏡手術を行うことです。ダヴィンチは、欧米を中心にすでに医療用具として認可され、1997年より臨床応用されています。日本では、泌尿器科領域で2012年に前立腺全摘術が保険収載され、本年より腎部分切除術が新たに適応追加されました。当院では2013年にダヴィンチを導入し泌尿器科を中心にロボット支援手術が行われております。

手術支援ロボットは、従来の腹腔鏡手術を支援するために開発されたロボットで、外科医がサージョンコンソールと呼ばれるコクピットに座って操作することによって患者さんの腹腔内に挿入したロボットアームが連動しスムーズな手術を可能にしています。つまり、ダヴィンチは自動的に手術をするのではなく、いわゆる内視鏡手術を支援する道具のひとつであり、実際に

手術を行うのは外科医です。術者は自然な奥行き感が得られる三次元による立体的で正確な画像を見ることができ、手振れ防止機能と自由に曲がる多関節鉗子で従来の腹腔鏡下手術で弱点とされていた点を克服し、さらに安全で正確な手術が行える可能性があります。しかし胃癌に対するロボット支援下手術はまだ保険収載されておらず2014年9月に厚生労働省より先進医療Bと認定され、藤田保健衛生大学を中心に多施設共同前向き研究が開始されています。

ダヴィンチを用いたロボット支援腹腔鏡下胃切除術は、胃癌に対する、知識、手術手技、腹腔鏡手術に精通していることが重要で、日本内視鏡外科学会の技術認定医及び消化器外科学会専門医、インテュイティブサージカル社からの術者認定を受けた者が執刀します。また導入時には日本で最も多くロボット手術を手掛けている藤田保健衛生大学の宇山一朗教授を招聘し直接指導をいただきました。私たちはこのロボット手術が次世代の有望な治療となりうると確信しておりますが、現段階では安全に手術が遂行できることを最優先としながら茨城県での先駆けとして積極的に行っていきたいと考えています。



● 第三消化器外科部長

清水 芳政



手術の様子(一番左がダヴィンチ サージョンコンソール)



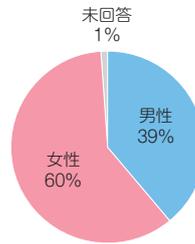
宇山教授(右から三番目)と当院ロボット支援手術チーム

平成27年度患者満足度調査結果

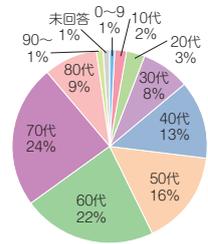
平成27年12月7日（月）～11日（金）、当院において患者満足度調査を実施しました。結果は以下の通りです。今回の調査をもとに、皆様からの評価及びご意見を全職員で共有し、より良い病院づくりに努めてまいります。詳細は当院ホームページにも掲載されております。ご協力ありがとうございました。

回答総数：744名（外来524名、入院220名）

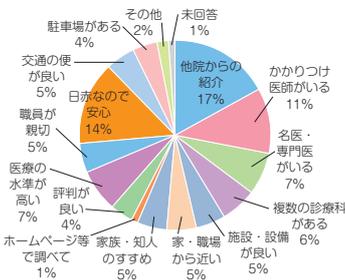
性別



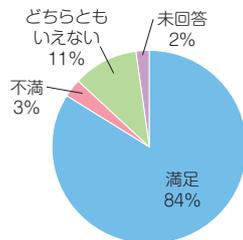
年齢



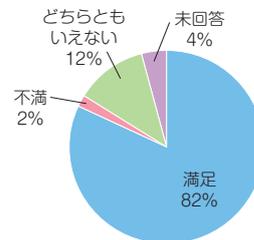
当院を選んだ理由は何ですか。（複数回答可）



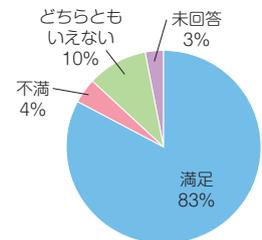
コミュニケーション…医師や職員は、聞き取りやすく、わかりやすい言葉で説明しましたか。



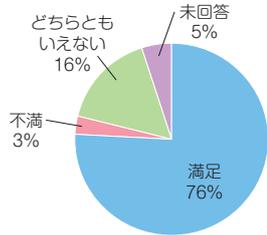
職員能力…医師や職員は、必要な知識と技術が身につけていると思いますか。



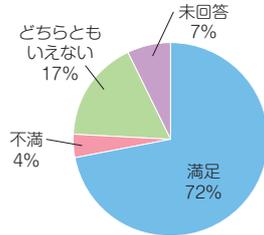
ていねいさ…医師や職員は、礼儀正しく親切で、ていねいでしたか。



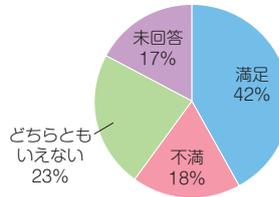
反応の良さ…医師や職員は、患者様の希望をできる限り取り入れようとしていましたか。



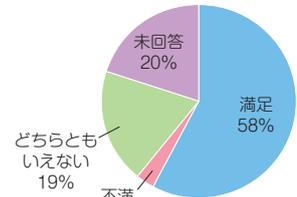
患者様理解…医師や職員は、患者様の気持ちを理解しようとしていましたか。



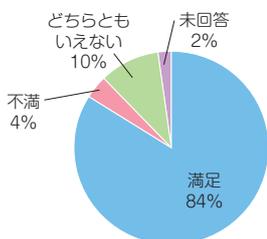
診察待ち時間…診察までの待ち時間は、許容の範囲内でしたか。



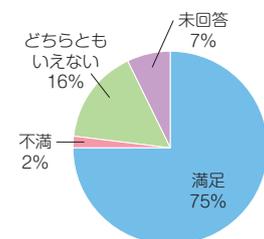
会計待ち時間…診察終了後、会計までの待ち時間は、許容の範囲内でしたか。



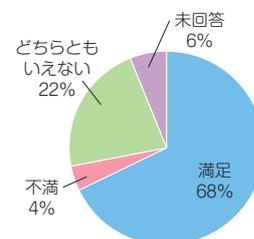
手続きの容易性…入院前や入院中のさまざまな手続きはうまくいきましたか。



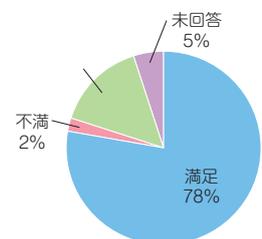
プライバシー保護…院内のプライバシー保護は十分でしたか。



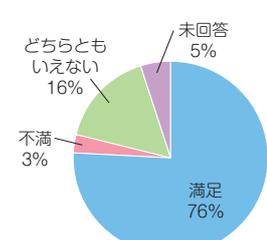
均一のサービス…院内のどこでも、どんなときでも同じようなサービスを受けることができましたか。



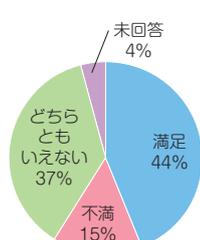
安全…院内では安全に医療サービスが行われていると感じましたか。



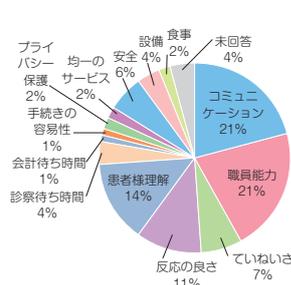
設備…病院の設備や環境は快適でしたか。



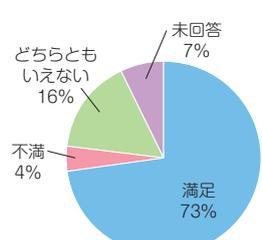
食事…入院中の食事には満足されましたか。



あなたが重要だと思うものについて3つまでお書き下さい。（入外計）



平成27年度患者満足度調査満足度総合計



看護の日イベント開催しました

フローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日に関連し、水戸赤十字病院では5月10日(火)に看護の日のイベントを開催しました。

毎年行っている血圧・体脂肪測定や栄養相談、救急法の実演等の他、新たに乳がん自己検診方法や手洗いチェック、認知症予防運動の実演、災害時に役立つ技術としてタオルケットで作るガウンの紹介等、様々なコーナーを設け、沢山の方が立ち寄られていました。

また赤十字のマスコットであるハートラちゃんも初参加し、子どもたちに大人気でした。



血圧測定コーナー



救急法の実演・体験コーナー



平成28年熊本地震に関する展示コーナー



ハートラちゃんと救護服着用職員



認知症予防運動の実演



栄養相談

栄養課

レシピ紹介



かぼちゃのモロヘイヤあんかけ
加り:-100kcal 塩分:0.6g

材料 [1人前]

かぼちゃ.....100g
豚ひき肉.....20g
モロヘイヤ.....10g(1/3束)

【調味料】

だし汁.....50cc
砂糖.....小さじ1
しょうゆ.....小さじ2/3
片栗粉.....適量

作り方

- ①かぼちゃを一口大に切って茹でる。
- ②だし汁に豚ひき肉をいれ、砂糖、しょうゆで味を調える。
- ③豚ひき肉に火が通ったら、刻んだモロヘイヤを加え火を通す。
- ④水溶き片栗粉を適量いれ、好みのとろみになったら火を止める。
- ⑤小鉢に茹でたかぼちゃを盛り付け、あんをかけたら完成。

緑黄色野菜を食べて、生活習慣病予防を!!

モロヘイヤをご存知でしょうか。エジプト語で“野菜の王様”という意味で、刻むとネバネバとするのが特徴の緑黄色野菜です。緑黄色野菜とは、カロテンを600mg(100gあたり)以上含む野菜です。1日の野菜摂取目標量は350gで、その1/3(120g)程度を緑黄色野菜で摂ることが望まれます。今回は、カロテン豊富なかぼちゃとモロヘイヤを使った料理を紹介します。

[モロヘイヤ]

- ・栄養成分：カロテン、ビタミンB群、ビタミンC・E、カルシウムが豊富に含まれています。
- ・健康効能：骨粗鬆症の予防、疲労回復、高血圧予防、貧血予防、肌や皮膚を若々しく保つ美容効果などがあります。また、ネバネバとした粘りには水溶性の食物繊維が多く含まれており、コレステロールの低下作用をはじめ、便秘改善、肥満や糖尿病などの生活習慣病予防に優れた効果があります。

～参考～

100g中の食品成分比較	カルシウム (mg)	カロテン (μg)	ビタミンE (mg)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンB6 (mg)	ビタミンC (mg)	食物繊維水溶性 (g)
かぼちゃ	15	4000	5.1	0.07	0.09	0.22	43	0.9
モロヘイヤ	260	10000	6.6	0.18	0.42	0.35	65	1.3
ほうれん草	49	4200	2.1	0.11	0.20	0.14	35	0.7



地域医療連携課



水戸協同病院と当院における医療機能の連携協定について

当院と「筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター 総合病院水戸協同病院」間において、相互に医療機能の連携・協力を図ることにより、患者様への適切な医療の提供や地域医療の向上に貢献することを目的に、平成28年3月31日付で連携協定を締結しましたのでお知らせいたします。

今後の目標としては、両病院が強みを生かし、弱みを補う形での患者の紹介、逆紹介はもとより、設備・機器の共同利用や研修・研究会等の開催、職員の相互交流等により、連携、協力関係を深め、各々の診療機能の向上と地域医療への一層の貢献等を目指していきます。

地域医療連携懇親会の開催について(登録医の皆様へ)

当院は、平成28年4月30日現在、登録医療機関数が331施設、登録医数が416名となっており、日頃より地域医療連携業務に協力頂いているところです。

そこで、地域医療機関の先生方との連携をより一層深めたく、恒例となりました「地域医療連携懇親会」を下記のとおり開催いたします。

記

1.日 時 平成28年7月14日(木) 18:30~21:00 (受付 18:00~)

2.会 場 ホテル テラス ザ ガーデン水戸
水戸市宮町1-7 ☎029-300-2500

3.次 第

<第I部 講演>

- | | | |
|-----------------|----------------|-------|
| 1) 「C型肝炎について」 | 水戸赤十字病院 第三内科部長 | 鈴木 考治 |
| 2) 「すべては故郷のために」 | 水戸ホーリーホック社長 | 沼田 邦郎 |

<第II部 懇親会>

以上

<昨年の様子>



紹介状持参のお願い

初診の方は紹介状(診療情報提供書)の持参をお願いします。



次の場合は、「**紹介状**」が必要となります。

- ・当院を初めて受診される場合
- ・当院での治療が終了し、再び来院され受診される場合
- ・患者さまが任意に診療を中止し、改めて受診される場合

— お持ちでない方は —

選定療養費3,240円(税込)が必要となります。

皆さまの、ご理解とご協力をお願い致します。 病院長

